

目標設定シート (2009年度)

部局と評価項目・要素

対象部局	経済学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント（TA）・リサーチ・アシスタント（RA）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保
小項目	9.0.5 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。
要素	研究倫理に関する学内規程の整備状況 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性

○2009年度からの目標

1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。
2. 大学院生や研究員をTA（Teaching Assistant：ティーチングアシスタント）、そして学部3・4年生をLA（Learning Assistant：ラーニングアシスタント）とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。
3. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。

○指標

1. 教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求への対応率。
2. チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。
3. 学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。